

カトリック六甲教会

教会報

10

No. 646



出会うことの大切さ

助任司祭 渡辺徹郎, S. J.



中高生会では夏の合宿として、3泊4日で静岡にある「ラルシュかなの家」に滞在してきました。「ラルシュかなの家」とは障害福祉サービス事業所とグループホームからなる、知的障がいのある人とない人の共同体です。ラルシュは1964年にカトリック信者のジャン・バニエという人物によってフランスで創設されました。知的障がいのある人とない人がキリスト教的価値観に根差しながらともに支え合い、生活することを目的とした共同体であり、現在は37か国に160の共同体があります。

ラルシュ共同体で核となる思想は「知的障がいのある人はただ助けられる存在ではなく、人として大切なことを教えてくれる存在」というものです。職員と利用者はそれぞれ「アシスタント」と「なかま」と呼ばれており、両者の関係性は「助ける一助けられる」という一方的なものではなく、相互に与え合うものです。知的障がいの有無でレッテルを張ることなく、両者は互いに神さまから同じ尊厳を与えられた存在として受け入れ合い、友情を育んでいます。

中高生たちはこの合宿での体験によって知的障がいのある人々への偏見がなくなったと言っていました。ここに来るまで、参加した中高生たちは知的障がいのある人々とほとんど関りなく過ごしてきました。日本社会の構造として知的障がいのある人々とない人々は生活スペースの住み分けがあるからです。コミュニケーションの欠如は相手に対するネガティブな感情をあおります。今回参加した中高生の多くも、知的障がいのある人々への漠然とした恐怖や不安を抱えていたようです。しかし、中高生は今回の合宿で知的障がいのある人々と人格的に交わる機会を得ました。ラルシュのなかまたちは優しく、よく笑います。そんななかまたとの心のこもった交流を通して、中高生はこれまで抱いていた恐怖や不安が払しょくされ、知的障がいのある人々は「全然大丈夫」だと思うようになったとのことです。合宿最終日には、ある中高生はラルシュから離れるのが寂しすぎて「ずっとここにいたい！」と言うほどラルシュ共同体は居心地がよかったです。



この中高生の変化はわたしたちに「出会うことの大切さ」を教えてくれています。人は実際に出会うことによって生じる人格的な交わりを通して、ようやく相手のかけがえのない尊厳に気付くことができるのではないかでしょうか。

2025年度 第3回 小教区評議会 議事録(要約)

日 時:2025年9月14日(日)11時15分~13時40分

場 所:信徒会館 第1・2会議室

出席者: 加藤信也(主任司祭)、渡辺徹郎(助任司祭)、堤 福生(議長)、荏原いずみ(副議長)、中村治也(副議長)、三木宏夫(書記)、岩谷美禰子(書記)、小田琢也(壮年会)、藤井敦子(婦人会)、吉村千里(教会学校)、井川直哉(地区会)、中西裕樹(典礼部)、井川伸子(社会活動部)、蛭田 武(三日月会)、大上尚子(広報部)、本下 稔(施設管理部)、松井理直(防災委員会)、宗行孝之介(周年事業プロジェクトチーム)、西川 葉(事務室)

(編集部注:議事録中※印のプリント参照などの記載は会議場においてのみ配布されました。)

1. 主任司祭の挨拶

9月になり、行事の多い季節が始まる。皆で協力していきたいのでよろしくお願いしたい。

2. 報告事項

(1) 侍者鍊成会(7/13[日]、7/20[日]): 参加者は、小3生5名、小5生2名 計7名。
教会報8月号参照。

(2) 教会学校リーダー研修会(7/26[土]): 医療講習会、リーダーの心構え等の研修内容。

(3) 社会活動部勉強会(7/27[日]): 大阪高松大司教区平和月間行事の一環。

古川龍樹氏(生命山シュバイツアード代表)の講演。約70名参加、盛況だった。

教会報8月号参照。

(4) 平和を祈る集い(8/9[土]): ジャーナリスト西谷文和氏の講演。約50名が参加。

暑い時間帯だったので、今後は日曜ミサ後などにしてはどうかという意見も出た。教会報8月号参照。

(5) 教会キャンプ(8/13[水]~14[木]): 仁豊野教会。こども19名、リーダー6名 計25名参加。

天気があまり良くなかったが、かえって熱中症などにならずにすんで良かった。

(6) ミニコンサート(8/15[金]): 六甲教会独唱奉仕者 橋岡尚美さんご夫妻が出演。

85名が参加。

(7) 平和を祈るテザの集い(8/30[土]): 19時スタート。約100名参加。大阪高松大司教区平和月間行事の一環。

(8) 防災セミナーとAED講習会(9/7[日])

小田琢也さん(壮年会・防災委員会)により地球環境研究センター副センター長 江守正多氏の講演「ともだちに話したくなる! 地球温暖化のリアル」を動画で紹介。これに続き三垣恭子さん(防災委員会)によるAED(自動体外式除細動器、セコム製、救命時間短縮型)の使い方の説明と実演が行なわれた。

参加者約70名。AEDを信徒会ロビーに設置(9/7[日])。

① チャリティーバザー出店応募状況とチラシ案について

・タイトルから「ミニ」をとり、単に「チャリティーバザー」とする。

・応募7件、考慮中1件を確認している。次の週報で再度応募を促す。

・開催日時: 開催日は11/9(日)。開始時間は、昨年同様11:15~15:15とする。

・内容: 食料品、衣料、雑貨、食べ物(フランクフルトなど)。古本市は検討中。

ワークショップ計画中、オルガン体験時間は未定。教会案内ツアーは、加藤神父不在(予定)のため、広報部が担当する。昨年より回数を減らして2回行う。オルガン体験の時間帯と重ならよう調整する。

・バザー売上金について: 各支援団体はそれぞれの支援先に寄付し、その他の収益は、教会から自然災害・紛争地域への支援とする。(昨年は能登地震被害支援)。

以上の内容を10月号教会報に分かっている範囲で掲載する予定。

② 周年事業プロジェクト進捗状況

- ・9/4(木)に第7回会議を実施。
- ・歴代神父へのインタビューを計画していたが、松村神父、桜井神父の健康状態を考慮し、断念する。
- ・桜井神父(ロヨラハウス)、松村神父(長崎・イエズス会二十六聖人記念修道院)、アルフレド神父(宇部教会)、英神父(長府教会)に原稿を依頼し、ご了承いただけなければ、過去に執筆された文章(教会報等)からの転載にご了解をいただく。
- ・専門部会各部に原稿を依頼する際に、今後は主任司祭とプロジェクトチーム長の連名での依頼状を作成し、これにより依頼することにする。
- ・座談会(過去～現在編)を7/27(日)に実施。出席者は松平麻也コーディネータ、蛭田 武、本下 稔、川越明美、藤原公子、西田 仁の各氏。(5名)。
- ・記念誌は、ホームページで閲覧できるように電子媒体で作成するが、紙媒体でも冊子を作成するかは検討中。費用、体裁、配布先なども要検討事項。
- ・新聖堂30周年記念ミサについては 11/30(日)に実施し、片柳弘史神父(山口教会)が来神され、10時ミサを共同司式される。その後茶話会を実施する。

③ ハラスメント対応について:訴えがあり、8/27(水)に委員会を開いた。

④ 施設管理部の事業報告

- ・J-COMの光回線設置(7/26 [土])により「教会内ネットワーク整備事業」は完了。
- ・藤棚下のテーブルと椅子の購入と設置(8/4 [月])により「藤棚下の整備事業は完了。調度品の形体および色は神父様や教会学校関係者の合意と賛同で決定。
- ・空調の補修工事終了(8/28 [木]): 小聖堂(イグニッションコイル交換)、イグナチオホール(冷却水圧縮ポンプおよびパイプの交換)。
小聖堂の冷房効率が低いが、今年の夏季気温に対しては現空調機では現状が限界である。
空調関係の電気基盤の老朽化対策が必要になっている ⇒ 見積依頼中。
- ・消防点検報告書を灘消防署に提出(9/10 [水]): 指摘事項なし。

3. 協議事項

(1)地区再編プロジェクトチーム提案を討議、下記内容で了承された。

※第4回地区再編プロジェクトチーム議事録プリント参照

① 教会掃除(毎週の教会掃除)

地区会の当番制を廃止し、2026年から新体制にする。そのためのプロジェクトチームを募集する。

② 教会大掃除

地区会主催から小教区評議会主催に変更する。今年の11/29(土)より実施する。

③ イグナチオ喫茶

地区会のボランティアの運営とする。2025年度中に新体制を構築する。

藤井敦子婦人会会长がキーパーソンとなり、広くボランティアを募集し新体制移行を検討する。

④ 教会各行事

a.新年会は開催しない。新成人のお祝いは、10時ミサ中に行う。

b.復活のお祝い会と初聖体のお祝い会:

2026年4月12日(日)初聖体のミサ後、一緒にお祝い会を実施する。地区会役員と教会学校がお祝い会を担当する。

c.堅信のお祝い会:地区会の役割から外し小教区評議会主催とする。2年に一度。

d. 司祭歓送迎会:

10時ミサ中に歓送迎のセレモニーを実施、イグナチオ喫茶等での茶話会を開催する。

⑤ 地区会再編

a. 高齢者(高齢で教会のミサに与かれないと教会との繋がりを求めている方)の把握

地区役員が動静確認と同時に、ご聖体・病者の塗油・ゆるしの秘跡の訪問の希望を確認する。

訪問希望者リストを主任司祭に2025/10末迄に提出することとする。

主任司祭が順次訪問していく。訪問リストは順次更新していく。

b. 地区の再編

2026年度は地区割りを現状維持とする。

2026年度の地区交流会にて地区会の役割が大きく軽減した状況を踏まえ、地区会の役割と意義(交流の場としての地区会など)を議論し、地区割りを討議してもらう。

(2) 「六甲教会 会議室等使用規定(案)」 ※プリント参照

審議の結果、一部訂正し承認された。会議室等使用規定の概要は、次の通り。

【定義】

・会議室等とは、第1～第7会議室、イグナチオホール、図書室、信徒会館ロビー、厨房(聖堂棟)をいう。

【使用用途】

①教会活動に限定

②主任司祭および議長・副議長・書記で構成される評議会役員(以下役員会といふ)が、地域交流や公共性があるとして承認した活動

【使用対象者】

①六甲教会員(司祭および信徒)

②役員会が認めた個人または外部団体(本教会信徒の所属の有無には拘泥しない)

【使用時間】

①事務室が業務をおこなっている日の午前9時～午後5時までとし、夜間(午後5～午後9時まで)の使用については、役員会が許可しない場合がある。

②土曜日、日曜日以外の通常日には、使用申請のない会議室は施錠する。

【使用上の注意】

①会議室を使用する場合は、使用希望日の1週間前までに「使用願い」を提出する。なお、各部・各会の使用に限り、1週間前までに申込書を提出できない場合は、電話またはメールによる申請も可とする。

②通常日に会議室を使用する場合は、事務室で鍵を入手し、使用後速やかに事務室に返却する。

③通常日の午後5時以降の会議室の使用については、事務室が事前に解錠する。

また使用後は終了の旨を修道院(信徒会館3階)へ電話連絡をする。

④会議室使用後、エアコン電源の切断、消灯または窓に施錠などを怠った活動については、その後の使用を許可しない場合がある。

⑤外部団体の会議室での飲酒および飲食は禁止する。違反団体には使用承認を解消する場合がある。

【適用】

本規定は、現在鍵の付いている会議室には2025年10月1日(水)から適用する。

信徒会館ロビーを除くその他の会議室については、鍵が付き次第(2025年11月末予定)適用する。

○審議中、次の意見が出た。

・図書室も施錠するのか。

- 会議室等使用規則に従って施錠する。
- ・オープンスペースとして信者以外の人が使用することをどう考えていくか。
 - 当面、役員会が認めた個人または外部団体に限定する。
- ・事務室の警備が必要である。特に、人気の少ない事務職員が1人のみなどの時。
 - 監視カメラの設置や事務室の改修など、いくつかの方策を考えている。
- ・「役員会」の定義を明確にする。
 - 主任司祭および議長・副議長・書記で構成される評議会役員をいう。
- ・小聖堂も含まれるのか
 - 規定が運用可能ならば準ずるものとする。または別途検討する。
- ・事務室の警備については、不測の事態が起こる前に早急に検討して対応すべきである。

4. 今後の行事予定

- (1) 三日月会例会 (9/15[月]):60名参加予定
- (2) 信徒のための典礼のお話 (10/5[日]):加藤神父の講演。
- (3) 教会遠足(10/18[土]):14名申し込み有、あと10名参加で催行決定する。
- (4) バザー委員会(10/19[日])
- (5) 祈りと音楽の集い (10/19[日]):14時より
- (6) 秋の黙想会(10/25[土]):英隆一朗神父(長府教会)による 第6回(最終回)。
以降は、四旬節・待降節の黙想会に変える。
2026年3月14日[土]は加藤神父による黙想会を計画中。
- (7) 教会学校秋の練成会:未定
- (8) 幼児洗礼式(10/26[日]):実施しない
- (9) 秋の墓参 (11/2[日])
- (10) チャリティーバザー (11/9[日])
- (11) ミニコンサート (11/1[土])

5. その他各部・各会からの提案

- (1) 倉庫の整理
 - ・1階倉庫内が無秩序になっている。整理したいという声がある。
 - ・1階の厨房(聖堂棟)と倉庫の整理を実施することになった。
 - ・藤井敦子さん(婦人会会長)が教会報に廃棄処分品の確認願いを掲載し、有志を募り倉庫と厨房の整理を行う。(編集部注:次頁に掲載しました)。
- (2) 周年事業プロジェクトチーム
11/30[日] (待降節第1主日) 献堂30周年記念ミサ後、集合写真を撮りたい。80周年記念誌に掲載予定。 →承認

**第4回小教区評議会 11月23日(日)14時より(クリスマス飾りつけ後)
於:信徒会館 第1・2会議室**

◎重要なお知らせ ≪ 厨房(聖堂棟)と倉庫の整理 ≫

いつも教会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。

さて、この度、聖堂奥の厨房と隣の倉庫の整理を行うこととなり、利用状況の確認と整頓のお願いを申し上げます

1) **利用状況の確認** 厨房と倉庫を利用されているグループは、次の報告をして下さい。

●利用頻度と利用の仕方 (集会の時に料理を作っている、教会内で活動する時に使用する道具を置いている、等)。

●使っている備品

●問い合わせ先

・上記報告書の書式は問いません。

・提出先：①教会受付、②婦人会の引き出し、③婦人会 藤井宛メール

(amff1000@gmail.com) 。 ①～③のいずれかまで、お願い致します。

なお、メールの際は件名を「**厨房と倉庫整理の件**」としてください。

・報告の締め切り：10月末日

2) **整頓のお願い** 冷蔵庫や倉庫に置いてあるものの整頓を行い、所有者が分かるようにご配慮ください。 (報告書は不要)

現状確認の上、段取りを整え次第、皆様のご協力をいただきながら、整理整頓を行う予定にしています。解散しているグループの道具などが倉庫に放置されている状況や所有先の分からない調味料や飲み物が冷蔵庫に残っている様子が見受けられます。ここで一度、見直し、改善し、気持ちよく、使いやすくなるよう整えていくためにご協力よろしくお願いいたします。

婦人会 藤井敦子



カトリック六甲教会ホームページやSNS（フェースブック、インスタグラム、X [旧ツイッター]）からさまざまな教会活動を見るることができます。教会報最終頁のQRコードを読み込んでみてください。





チャリティーバザー

どなたでもご自由にお越しください

2025年11月9日(日) 10時ミサ後 11:15~15:15

場所： カトリック六甲教会

神戸市灘区赤松町 3-1-21

☎ (078)851-2846

出店場所： イグナチオホール

信徒会館 ロビーと2階

- ・食料品（イタリア食材、手作りケーキ、クッキーなど）
- ・衣料品、アクセサリー、手芸品、キャンドル、雑貨、カード
- ・喫茶、軽食（ピザ、クリームシチュー、サンドイッチ、寿司、フランクフルトなど）
- ・ワークショップ オニヤンマ君作り（防虫グッズ） 信徒会館 1F
- ・ワークショップ マグネット帽子
- ・オルガン体験【パイプオルガンを鳴らしてみよう！】11:30 / 13:00 主聖堂
- ・教会案内ツアー 11:00 / 14:00 聖堂前の庭に集合
- ・朗読の集まり（読み聞かせ）信徒会館 1F

収益金は全額チャリティー先に献金されます。

主な献金先 自然災害、紛争地域支援

お車でのご来場は極力お控え下さい。

所定の台数を超えた場合は駐車できません。

« 平和を祈るテゼの集い » (2025年度大阪高松大司教区平和月間行事)

「平和を祈るテゼの集い」を、8月30日19時より渡辺徹郎神父の声掛けにより、音楽チームと聖歌隊が協力して行いました。

六甲教会でテゼの祈りを行うのは14年ぶり。テゼ (Taizé) はフランス・ブルゴーニュ地方テゼ村の修道院が名前の由来です。テゼの歌は、「♪ 歌え主に感謝 恵み深い主に」など、短い言葉にシンプルなメロディをつけ、何度も繰り返し歌われます。当日はギターとリコーダーの伴奏と先唱に導かれ、この日のために練習を重ねた聖歌隊メンバーの4声に分かれた歌声に合わせて、みんなで歌うことができました。ろうそくの灯を見つめながら、その中に祈りが溶け込むような時間でした。**(写真は、主聖堂祭壇前に掲げられたマリア像とロウソク)**



今年は大阪高松大司教区で「希望と平和の巡礼者になろう」のテーマのもとに、7月から2カ月間にわたり平和月間の行事が行われました。その締めくくりに「歌うことによって祈る」、この集いに参加した100名を超える方々と声をあわせて、世界の平和を祈る時間を持てたのは意義深いことでした。

1日も早く、世界の人々が砲火に怯えることなく暮らすことのできる日が来ますように。

来年もまた、「テゼの祈り」を続けていきたいと思っています。**(オルガン奉仕者 三浦優子)**

« “地球温暖化のリアル”を知る動画講演会 » ～命を守る月間に寄せて～

9月7日(日)10時ミサ後に、イグナチオホールで防災委員会主催の集い「ともだちに話したくなる！ 地球温暖化のリアル」で、動画による講演会が持たれました。参加者は約70名。

地球の気候変動については、フランシスコ前教皇様が回勅「ラウダート・シ」で深い懸念を示されました。その精神に学び、私たちカトリック教徒もまた、地球温暖化問題等を真剣に考える必要があることが、会の冒頭で示されました。[\(https://laudatosi.jp/2023/11/29/2055/\)](https://laudatosi.jp/2023/11/29/2055/) カトリック中央協議会ホームページ参照)。

司会進行を務めた小田琢也さん(壮年会、防災委員会)は、9月1日～10月4日が、「すべてのいのちを守るための月間」と定められていることに注意を喚起し、動画の映写が始まりました。講師は、国立環境研究センター副センター長の江守正多氏。「ともだちに話したくなる！ 地球温暖化のリアル」は全3回シリーズで、それぞれ「第1回 温暖化のウソ？ホント？」、「第2回温暖化ってヤバいの？」、「第3回じやあ、どうしたらいいの？」。今回、その第3回が映写されました。

江守氏は、COP21パリ協定(2015年)の会議で合意された、世界の平均気温上昇を1.5°C未満なら、2050年前後、2°Cなら2070年までに世界全体の人間活動による二酸化炭素(CO₂)排出量を実質ゼロにするとした長期目標を紹介。世界のエネルギー源は、未だ石炭、石油、天然ガスといった化石燃料が8割を占めています。世界全体のエネルギー源を、温室効果ガスを排出しないものに転換していくには、社会の仕組みを丸ごと変えるほどのインパクトが必要になると知ってほしいとしました。今はや個人レベルで電気を小まめに消す、移動手段として自家用車はやめて自転車に乗る、エコバックを持つなどの努力ではどうにもならない、企業、政治家などをもっと動かす必要があると指摘しました。著名な環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんは、自らのパフォーマンスを通じて、「個人の変化より、システムの変化が必要」と訴えていることも紹介されました。江守氏は、私たちにできることは「エネルギー問題について関心を持つ」「世界で何が起きているかを知る」「周りの人と(地球温暖化について)話す。発信する」ことを心にとめてほしいとしました。また、社会システムに大転換が起きる必要があり、それに伴い人々の常識も変わることになる、としました。

講演会後は、AED(自動体外式除細動器)の取扱い説明と実演も行われました。AEDは教会事務室横に設置されました。

« 9月度三日月会 例会 »

9月度の三日月会例会は、敬老の日に当たっている為、元気シルバー約60名が集まり、互いに敬老の日を祝い合いました。

そもそも「敬老の日」とは、兵庫県多可郡野間谷村（現在の多可町八千代区）で、1947年（昭和22年）

9月15日に村主催の「敬老会」を開催したのが「敬老の日」の始まりであるとされています。これは、野間谷村の村長が「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」という趣旨から開いたもので、9月15日という日取りは、農閑期にあたり気候も良い9月中旬ということで決められたそうです。

当教会の三日月会（年齢70歳以上）メンバーは、約600名在籍されていますが、その1割がこの日に集まりました。加藤神父様司式のミサの後、美味しい弁当を食べ、当教会が誇る3人の男性“*The three wisemen*”（舞台写真左から鈴木 肇、船井孝祐、詫 洋一の各氏）による合唱から始まりました。なかなか素晴らしいハーモニーで会場の皆さんには、しばし聞き惚れていきました。その後は、ゲストによるアマチュアとは思えないほどの腕前のマジックショーがあり、その早業に皆さん、呆気にとられ見入っておられましたが、どう考えてもしかけや種は分かりませんでした。

最後に会場の皆さんで愛唱歌を歌って終わりましたが、活き活きシルバーここにあり、高齢者と言うより「幸歳者」の集まりでした。しかし、一方では病気で寝たきりや身体不自由で教会に来られない方々もたくさんおられることも考え、何をして差し上げられるか、三日月会としての課題だと思っています。

（三日月会会長 蝶田 武）



ミニコンサート ～諸聖人の祝日によせて～ 11月1日（土）

10時30分ミサ終了後、11時30分頃開始

主聖堂に於いて、ミサに続いて行われる20分間程度の小さなコンサートです。どなたでもお聴きいただけます。

The three wise men ザ・スリーワイズメン

鈴木 肇・詫 洋一・船井 孝祐（カトリック六甲教会独唱奉仕者）

オルガン・編曲：清水 真理子（カトリック六甲教会オルガン奉仕者）

Program

1. *Dona nobis pacem* われらに平和をあたえたまえ
2. 正しき者の魂 / 幸いなるかな心の清い人 C. グラッシュ (1868-1952)
3. ドイツミサより なやみのときに / 聖なるかな F. シューベルト (1797-1828)
4. われ神をほめ カトリック聖歌集12番

主催 カトリック六甲教会音楽チーム

私の好きな聖書のことば



「一緒に泊まりください。」

(ルカによる福音書 24 章 29 節)

夕闇の迫るエマオへの道で、復活したイエスとは気づいていない弟子たちが、旅を共にしてくださった救い主に向かつてお願いをすることばです。人生の暗闇の中でもイエスが共

に居てくださること、この弟子たちのようにイエスのことばで心を燃え立たせることの大切さをいつも自省させられます。また、弟子たちがイエスのパンを食べることで眼の前にいる方が救い主だと悟った瞬間、イエスの姿が見えなくなるという場面を聖体拝領の度に思い起こすようにしています。見かけはパンでありながらイエスご自身をいただいて救いに与るという、実体変化を起こしたご聖体の奥深さとその犠牲の意味に、不思議さと自分自身の罪の痛みを感じる時間です。

エマオへの道というテーマは、多くの芸術家に深い靈感を与えてきました。その中でも、H. F. ライトが死の直前に残した "Abide with me (主よ共に宿りませ)" という詩がとても好きです。日本でも W. H. モンクが曲をつけた聖歌「日暮れて四方は暗く」としてよく知られており、沈みゆくタイタニック号の甲板で楽団がこの聖歌を演奏し続けたとも語り継がれています。この詩は、"in life, in death, O Lord, abide with me (生きている時も死を迎える時も、主よ、共にいてください)" という句で締めくくられます。私も人生の最後を迎えた時に、一緒に泊まりくださいと祈れることを心から願っています。

フランシス松井理直

社会活動部 今月の予定

10月 1日 (水) 10時 手芸の集い 第1、第2会議室

10月 11日 (土) 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド (中央区小野浜町3)

一緒に車で行かれる方は 六甲教会に 10時集合です。教会事務に
事前にご連絡下さい。



10月 20日 (月) 9時半 ともしび会 教会厨房 (児童養護施設の子どもたちへの
ケーキ作り) (写真は9月のケーキ: チョコシフォンケーキ)

教会学校便り教会学校入学式と初めての侍者

教会学校は二学期に入り、9月6日（土）に始業式を行いました。最初にお祈りをしました。その後は夏休みの思い出を思い出しながら絵を描いてもらい、一人ずつ発表をしました（写真右）。子どもたちはどんな思い出だったか笑顔で話し、聞いている子も楽しそうにうなづいていました。その中で、思い出



には支えてくれた人への感謝があること、「ありがとう」を大切にしようと伝えました。最後はリーダーと戦う遊びで盛り上がり、明るく温かな雰囲気の中で二学期を始めることができました。



また、9月からは侍者に任命された子供たちが順次デビューしました。

21日（日）の10時ミサでも新しく侍者となった子供たち（先頭の二人）が列の先導を務めました。（写真左）。

（辻原 華）



この度、藤棚の下の空間がおしゃれな「憩いのスペース」として生まれ変わりました。すでに新しいベンチに腰かけて、くつろがれた方も多いのではないでしょうか。

この藤棚は今から30年前、現在の聖堂が建設された際に構築されました。これまでにも居心地のよい休憩場所として親しまれてきましたが、昨年から今年にかけて整備事業が行われ、さらに快適な空間になりました。昨年、むき出しだった地面にコンクリートを打ち、テラコッタ調のタイルを敷きました。あわせて車いすでも入れるスロープや安全のための手すりを設置し、今年の夏に藤棚や床と調和するオリーブグリーンのテーブルとベンチを新調しました。

今回の整備は景観の向上にとどまらず、安全性・快適性・耐久性を第一に考慮して行われています。工事は国の技術基準に則り、足元の不安定さや埃っぽさも解消されました。テーブルやベンチは軽量で様々な用途に合わせて移動しやすく、洗浄も容易で清潔に保てます。全ての計画、監督は施設管理部長が神父様方や関係者と協議を重ねながら進め、調度品の調達は同部の新メンバーが担当しました。

こちらでは春はサクラ、初夏はフジ、夏はトケイソウ、秋はモミジ、冬はサザンカと四季折々の自然を楽しめます。最近、植木屋さんがフジのつるを剪定してくださり、すっきりとした姿になりました。この植木屋さんは教会の信徒の方で、親子二代でお手入れしてくださっています。テーブルやベンチは毎朝清掃してくださる方のお陰で清潔に保たれています。

風が通り、緑に囲まれた開放的な空間は、屋外ならではの心地良さがあります。様々な集まりの場として食事を楽しみながら歓談したり、祈ったり。また、お一人で休憩したり、黙想したり。どうぞ思い思いにご活用ください。（施設管理部 島根朋子）



【お詫びと訂正】教会報25年9月号で以下の誤りがありました。お詫びして訂正します。

・卷頭言の聖句

[誤] 生きたいところへ行っていた。 → [正] 行きたいところへ行っていた。

・2頁平和月間イベントの1行目 8月9日(土)に訂正します。

・7頁に掲載したお花の写真のうち、右の1枚が違う花の写真でした。ここに写真と説明文を再掲します。



コリウス（シソ科）葉の色のカラーバリエーションが豊富です。花壇の花々と共に元気に成長し、華やかに彩ってくれています。教会の花壇には6株植わっていて10月頃まで楽しむことができます。

撮影日 2025.8.21

（説明文は9月号と同じ。ホームページ教会報では修正済）



【2025年10月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
					初金ミサ 7:00 10:00 ◎灘北1、北・ 三田	
5	6	7	8	9	10	11
年間第27主日 手話付きミサ 10:00 「ミサについての お話」11:15		ロザリオの 聖母マリア				社会活動部 炊き出し
12	13	14	15	16	17	18
年間第28主日 典礼部会13:00	7時ミサなし 教会事務室休み (スポーツの日)	7時ミサなし			◎大阪シナピス 定期清掃	聖ルカ福音記者 教会遠足
19	20	21	22	23	24	25
年間第29主日 世界宣教の日 (献金) バザー委員会 11:30 祈りと音楽の集 い14:00						秋の黙想会 10:00 教会学校鍊成会 (~26日) ◎東灘南
26	27	28	29	30	31	11/1
年間第30主日 施設管理部会 11:30		聖シモン 聖ユダ使徒			◎灘北2・阪神	(教会報印刷 日)

◎印は掃除当番地区（午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止）



【編集後記】

◇猛暑日が続いた今年の夏もどうやら衰えて来たようです。いまは涼しくなったとは言え、また来年も酷暑が巡ってくる。異常気象が毎年波状的に到来してその威力は徐々に高まっているように感じられます。根本的に解決しなければならない問題なのに、世界の指導者たちの意識の鈍いこと。「ノアの箱舟」にはごく限られたものしか乗れないのです。（余）

<p>次回11月号の印刷・発行は11月1日（土）10時半からです。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただか、FAX、メールでお願いします。</p> <p>renraku@rokko-catholic.jp。皆さまからのご寄稿をお待ちしています。</p> <p>・教会ホームページ（右のQRコード）をご登録ください。教会の行事のほか、「メニュー」のリンク集からはバチカン・ニュースも御覧になれます。登録のお手伝いをします。お声がけください。</p> <p>毎月の教会報はホームページではカラーでご覧になれます。</p>	<p>カトリック六甲教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電話 078-851-2846</p> <p>FAX 078-851-9023</p> <p>http://www.rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 加藤 信也 編集広報部</p> 
---	---